

琵琶湖(湖心部)の水質概況速報(平成 27 年度(2015 年度)第 2 四半期)

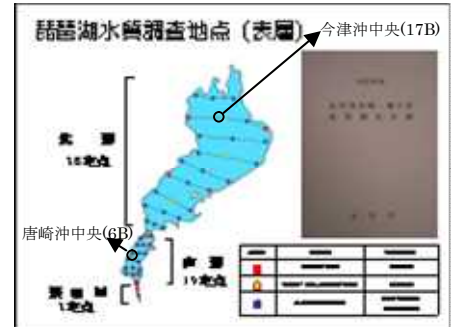
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、北湖・南湖各一地点における平成 27 年度第 2 四半期分の水質概況速報をとりまとめましたので報告します。

なお琵琶湖・瀬田川水質は北湖 28 地点、南湖 19 地点の年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値は平均値等の代表値とは異なること、後日修正を加えられる可能性があることをご承知おきください。

◎調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層 0.5m での毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の水深別調査は、当センターにおいては今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m 地点今津沖中央(通称「17B」)、他 1 地点、南湖では唐崎沖中央(通称「6B」)において、月 2 回実施しています。



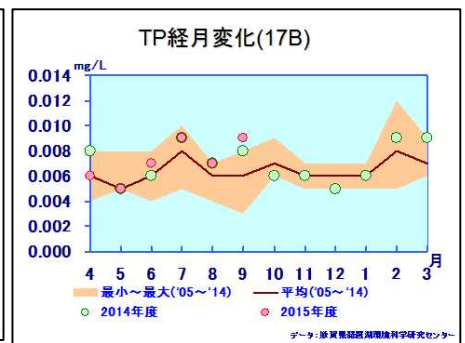
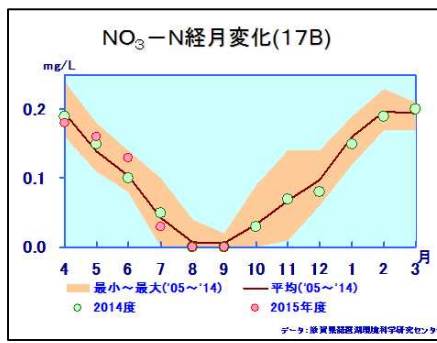
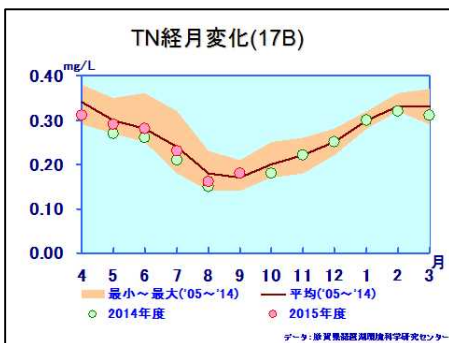
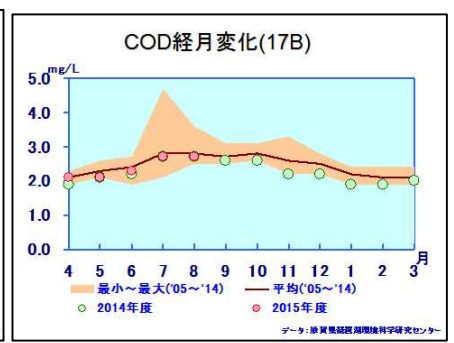
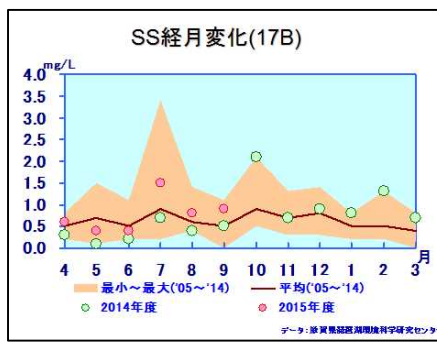
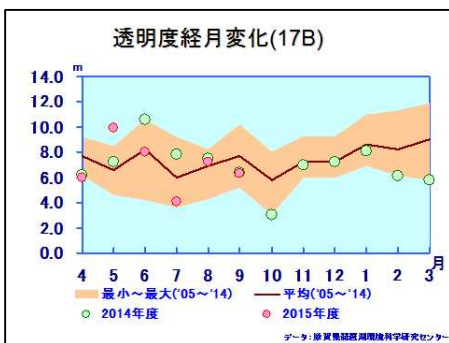
◎調査結果について

当センターで分担実施している北湖湖心部の今津沖中央(17B)、南湖湖心部の唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 27 年度第 2 四半期の水質概況は次のとおりです。

○今津沖中央(17B) 調査結果

透明度については、7 月は 4.1m と過年度平均値よりも低くなりました。8、9 月は過年度平均値並みの値でした。透明度に関連する項目である浮遊物質量(SS)については、透明度が低下した 7 月は過年度平均値よりも高い値となりました。7 月には 6 月と比較しクロロフィル a も増加し、植物プランクトンであるスタウラストルムの増加がみられたことから、これにより SS が増加し、結果として透明度の低下を招いたものと推定されます。8、9 月は過年度平均値並みの値でした。

有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)については、4~6 月は過年度平均値よりも低く推移しましたが、7、8 月(9 月は欠測)は過年度平均値並みの値で推移しました。全窒素(TN)は、7、8、9 月とも過年度平均値並みの値となりました。全窒素の形態の一つである硝酸態窒素(NO₃-N)は 7、8、9 月とも過年度平均値並みの値で推移し、8 月には枯渇した状態になりました。また、全りん(TP)は 7、8、9 月とも過年度平均値よりもやや高い値で推移しました。特に 9 月は 0.009 mg/L と過年度最高値(0.008 mg/L)よりも高い値となりました。



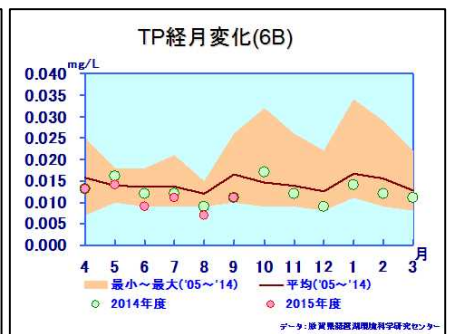
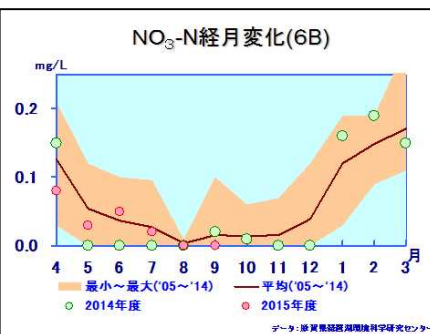
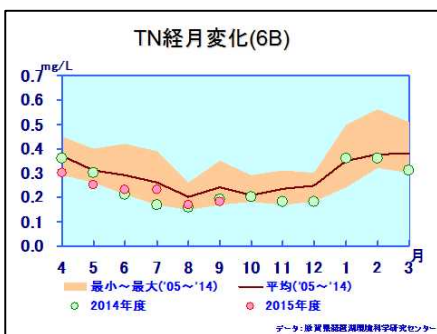
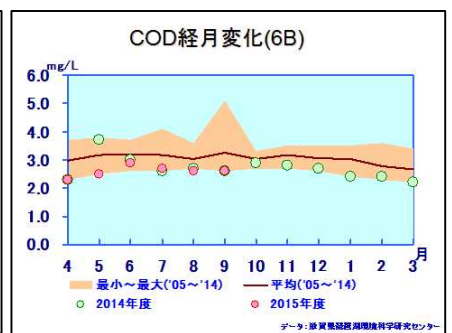
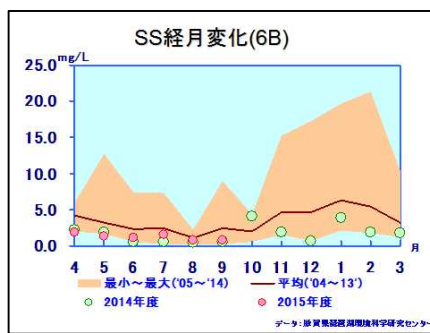
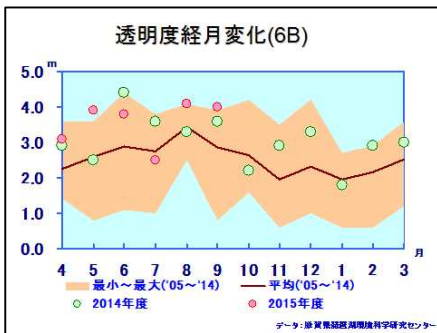
○唐崎沖中央(6B)調査結果

透明度については、7月は過年度(過去10年間)平均値並みの値でしたが、8月は過年度最高値と同値(4.1m)となり、9月は過年度最高値(3.9m)よりも高い4.0mとなりました。8、9月とも透明度は全透となっており、夏季に透明度が高い現象が認められました。

SSは7、8、9月とも過年度平均値よりも低い値となりました。

CODについては、7、8、9月全般的に値は低く推移しました。特に8月は過年度最低値である(2.7 mg/L)を下回り、2.6 mg/Lでした。

富栄養化項目である全窒素(TN)は、7月は過年度平均値並みの値でした。8、9月は過年度平均値よりも低くなりました。硝酸態窒素(NO₃-N)は7、8、9月とも過年度平均値並みの値であり、8月には枯渇しました。全りん(TP)は、7月は過年度平均値並みの値でした。8月は過年度最低値(0.009 mg/L)を下回る0.007 mg/Lでした。9月も過年度平均値よりも低い値となりました。



《問い合わせ先》

〒520-0022 大津市柳が崎 5-34
 滋賀県琵琶湖環境科学センター
 環境監視部門 公共用水域担当
 TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803
 E-mail: dc51400@pref.shiga.lg.jp